

2012.12.25/28/29 (Takabe)

復興事業・海外高校生研修受け入れ

高部英明

(takabe@ile.osaka-u.ac.jp)

(本記事は12/25にシンガポールから国際親善大使として高校生約20名が阪大のグローバル30事業との交流のために来た際、同席した高部の印象と雑感である。高校生時代から日本を知っていただくのはすばらしい事である。日本人が多数住むシンガポールには日本文化も多様に浸透している。彼等の触れた日本の印象は想像するのみだが、2時間の訪問の様子・雑感をまとめてみた)

東日本大震災で被災した人達は、2回目の寒い冬を迎えようとしている。東北と言えば、学生時代に旅館に泊まり、とても部屋の中が暖かく「大阪より暖かい」と感心したものだ。かつて住んでいたミュンヘンと同じで、家は寒い冬に耐えるように出来ている。夏はエアコンなど必要ない。ミュンヘンなどで毛皮を冬着ている人は部屋の中でどんな格好かと思うと、春の服装だ。その上に毛皮を羽織るだけでマイナス20度にもなる戸外では、暖を維持できる。

そんな環境に育った東北の人達が、プレハブ作りの仮設住宅で暮らすのは、想像を絶する。そんな人達を助ける臨時予算が災害復興費のはずだ。政府、財務省とお金のおいがかしてきたら、どんなへりくつこねても予算を取ってくるのが官僚の性。予算を取って「なんぼ」の官僚達。予算は勲章。勲章何個で、二等兵から一等兵、兵曹長、軍曹、尉官、佐官と昇進していく。実は、日本の官僚支配の弊害は予算獲得による評価制度にあると私の経験から感じている。予算は取らずとも現場に足を運び、当事者の声に耳を傾け、国民の目線で働く官僚を昇進させるシステムに変えるだけで、日本は再生できると確信している。

所が現実の評価システムでは、外務省も紳士然とはしてられない。「復興予算が出るそう。何か予算要求できないか」と霞ヶ関の一室で相談。「そう、アジアの高校生達に被災地の現状を見せて、災害の怖さを勉強してもらい、教育と国際親善を同時に行う」。なかなか、良さそう。

というようなことなのか、復興予算でシンガポールの中華系高校から約20名の親善大使が阪大に来た。昨夜神戸に宿泊した Hwa Chong 国際学校 (<http://www.hcis.edu.sg/joomla/hcis9/>) の生徒が制服に身を包み、阪大の後、岩手県の被災地に向かうそう。引率の先生に聞いたら「シンガポールの日本大使館から校長に電話があり、『絆』プロジェクトに参加しないかと勧誘があった。そこで、日本の招待で訪日することになった」とのこと。20人ほどはほとんど女子(女子の方が好奇心旺盛)で、クラス委員長は坊ちゃん髪の子。この高校は中高一貫で、全校生徒4千人。話しからどうも大使館から指名で勧誘されたようだ。有名進学校なのでしょう。

とにかく、25日のクリスマスの朝10時にバスで彼等は理学部F608の部屋に到着した。高校生は明るい雰囲気です。部屋が和む(写真1)。彼等に接するだけでもこちらが若さを貰える気がする。彼等は大学受験を来年に控えているようで、阪大のグローバル30プログラムに関心があり、訪問となった。旅行の一切はJICA(独立行政法人 国際協力機構 <http://www.jica.go.jp/>)の下部組織のJICE(日本国際協力センター：<http://sv2.jice.org/> 外務省管轄の公益法人、JICAからの受託業務が主)が世話している。結局、私達の税金は「復興予算」となり、その一部が、外務省傘下のJICAやその下の組織に流れるということだ(悪く言えば、復興予算に名を借りて、税金は天下り先の法人に流れる。これが、官僚国家日本の構造)。

JICA と言えば緒方さんだが、すでに理事長は交代している。そういえば、事業仕分けでJICAは沢山叩かれた。JICAの職員が良く航空券をビジネスクラスを利用する点が問題になったことを覚えている。大学教授の私は、年に10回程度も国際会議などに出かけるのに、何時も格安旅券。会議を他しむのは良いが、狭い機内で眠れずに、帰宅して疲れが出る。大学教授なんて若くもないのに、JICAでは一兵卒並みの扱いのようだ。

さて、シンガポールの高校生達。会議室で阪大のグローバル30の学部2コースの説明を30分ずつ、1時間、受ける。私は学部英語コースの説明を聞くのは初めてだ。まず、ビューグラフが両方ともとても良く出来ているのに感心した。大阪の宣伝、阪大の宣伝。阪大は「QS世界大学ランキング」、世界で50番目だそう。世界大学ランキングは3つが有名。詳しくはGoogleで[世界大学ランキング]を検索し、Wikipediaを見ると詳しく書いている。ただし、3大世界大学ランキングで新聞社などが良く引用する最も有名なThe Times社では(<http://www.timeshighereducation.co.uk/world-university-rankings/2012-13/world-ranking>)阪大は147位である。NUS(National Univ. of Singapore)は29位、以下に触れる南洋理工大学は86位、アジア1位の東大が28位である。The Times社は大学の国際化がいかに進んでいるかも評価の対象にしていることが日本の大学の順位を下げている。

彼等のスケジュールは忙しい。そこで、後方に用意した昼食を食べながらの歓談となった。相手側から阪大の学生達と交流したいということで、私もアナウンスに努めたが、結局、6名であった。クリスマスに異国の高校生と昼食を食べて、英語で話し相手になる学生はそう沢山は期待できない。食べる前に皆自己紹介し、私も自己紹介した。

私は2月末にシンガポールを訪問した。南洋理工大学(Nanyang Tech. Univ.)の友人に、彼が主催する国際会議の招待講演を依頼され、出かけた。島の東のチャンギ国際空港から、西の端の南洋理工大学まで、タクシーを利用した。私はタクシーを異国で使う時は運転手と話しをするようにしている。まずは情報収集である。この運転手が話し好きで、色々教えてくれた。シンガポールは今、中国大陸などからの大金持ちを優遇入国させている(かなりが、今問題の不正蓄財の成金で、逮捕を逃れての移民のようだ)。その数は半端でなく、2000年に人口400万人が、今は500万人を越えて、まだ増え続けている。彼等は広い200cm²

近くのマンションや家に住みたがる。そこで、建設ラッシュ。西の方は 2008 年に訪ねた時は森林地帯だったのが、建設中のビル、またビルである。シンガポールは日本と違い、景気がとても良い。国が小さく、世界経済の変化に政策が即応できることが発展を維持させている。

この建設を請け負っているのは日本のゼネコン。そして、現場の労働者はインドからの出稼ぎ労働者。建築場所の横のプレハブで寝起きする。出稼ぎに来たインド人は、ここで、数年働いてお金を貯める。そのお金で帰国して古里に自分の家を建てるそう。マクロ経済とは面白い。シンガポールには日本の企業が多数進出している。私の教え子が明電舎に勤め、いま、新しい地下鉄の入札で忙しくしていると、2月に昼食を共にしながら言っていた。黒くなって、もう既に現地の人である。

さて、話しを戻そう。私の自己紹介に興味を持ったのか、昼食をつまみながら高校生 4 名に囲まれた。女生徒が「先生。私、量子物理学にとっても興味があるんです」という。他の生徒も興味津々。そこで、私が不確定性原理から真空の量子論の話しをわかりやすく話してあげた。とても真剣なまなざしで聞いてくれるのでこちらも嬉しい。話半ばで、「新幹線の時間があります。もうすぐバスで出ないと間に合いません」という先生の声。「是非、記念撮影を」ということで、バスを置いて来た基礎工の近くまで見送りかねてある。そこで、集合写真を撮る（写真 2）。委員長の坊ちゃん刈りは映っていない。彼はプロ用のカメラを一生懸命、目の前で何枚も取っていた。

別れる前に高校生がみあげをくれた。キーホルダーなど。そして、委員長が大きなみあげを私にくれた。虎のぬいぐるみ（写真 3 ; 2 枚）。シンガポールと言えば、ビールは Tiger Beer。虎はこの国の象徴。これは世話をしたインカレ (International College, Osaka U) のものだと、渡そうとしたが、背中の 4 文字熟語を見て、いただく事にした。私の部屋に飾っている。前には高校の名前と校章が描かれ、後ろにはスローガンを背負う。私の好きな言葉「飲水思源」である。飲水思源 (いんすいしげん) は、中国の故事成句の一つ。「水を飲む者は、その源に思いを致せ。」という意味である。「井戸の水を飲む際には、井戸を掘った人の苦勞を思え」。学術分野では最初に独創的な研究を提唱した人に敬意を払え、という意味で使われる。

上海交通大学は阪大の姉妹校で毎年、学術セミナーを交互に主催している。その上海交通大学のモットーも「飲水思源」である。物理の建物のガラスドアにも大きく記されている。尖閣列島国有化が両国の極度の緊張した外交問題に発展し、日本は経済的な大被害を被った。中でも、松下 (Panasonic) の工場への破壊行為は許し難い。鄧小平が 1978 年、大阪府茨木市のテレビ工場を訪れた際、出迎えた松下幸之助氏に「中国の近代化を手伝ってくれませんか」と頼んだのが発端で、幸之助肝いりで、戦後初めて中国に日本の工場を作るという偉業をなした。まさに、中国の若者「飲水思源」を知らず、である。

国際関係が政府間で難しくなった時こそ、大学人が民間大使として日中間の良好な関係維持を確認し合わなければいけない。シンガポールはマレーシアか

ら 1965 年に独立した、都市国家である。マレーシア政府のマレー人優遇政策に不満を持つ中華系の人達が中心となり独立したと聞いている。マレーシアも経済的には華僑が支配している。フィリピン、インドネシアも 10%程の人口の華僑が富の 90%を所有していると聞く。米国には 200 万人の華僑。香港・台湾・マカオを除く世界の華僑の人口は 3000 万人だそうだ。いざとなれば、彼等も中国の味方だ。中国と共存共栄する道を新政権の安倍総理は日本の利益を守りながら、模索しなければいけない。果たしてタカ派の安倍総理にそれが出来るか、お手並み拝見である。

華僑同士や華僑と中国の結びつきの太さを垣間見た経験がある。私がアジア太平洋物理学会連合(AAPPS: <http://www.aapps.org/main/>)の理事をしていた時、世界華人物理学会(<http://www.ocpaweb.org/new/>)から AAPPS に加盟したいという申し出があった。彼等は世界中で活躍する華人の物理学者の集まりで、2 年ごとに中国本土の都市で、中国物理学会と合同の国際会議を開催している。中国を相手にすると言うことは、全世界のかなりの経済を握る華僑の組織も相手にすることだと言うことを肝に銘じておくべきである。

シンガポールは多民族国家だが、政治、経済は華人が支配する華人国家である。小さいながらも軍隊を持ち、徴兵制度もある。カナダ人が NSU に勤めていたが、子供が徴兵制度に服役する年齢が近づき、慌てて、カナダに帰国したという話を聞いた。例え、500 万人の都市国家であろうと、自分の国は自分で守るという姿勢を近隣諸国に示しておかないと、海外からの投資も来ない。シンガポールという国家のあり方は EU のように超国家組織が政治的・歴史的國家観の壮大な実験をしている対極にある。グローバルとは何も大きくなることだけでは無いのかも知れない。

大学に来て部屋を片付けた 12 月 28 日にこの文章を書き終えた。そして、翌朝、加筆訂正した。

皆さん良い新年を。

